

外壁アスベスト含有量調査時、除去施工時の注意事項

アスベスト含有建材の確実な種別(層別)判定のお願い

外壁仕上げ塗材の石綿含有調査は **塗材に含有** か **下地調整材(無機質)に含有** か判断できるよう調査分析してください。

外壁塗材に含有するアスベストが塗材に含有なのか、下地調整材に含有なのかによって、除去工法が変わります。調査分析時にどの建材に含有しているかを特定することで適切な除去工法選定、除去レベル選定を行うことができます。

建材中のアスベストの有無を特定する分析は、JISA1481-1(層別分析可能)、同1481-2(層別分析不可)があり前者ではどの層に含有しているか(塗材か下地調整材か)判別できるが、後者では塗材と下地調整材を粉碎混合して分析するため含有層の特定は不能。そのため後者を採用した現場でアスベストを検出した場合、下地調整材まで除去できる工法を選択する必要があります。

アスベストが構造物外壁に使用されていた可能性のある塗材、下地調整材の種類例

塗装材の種類		期 間	石綿含有量(%)
建築用仕上塗装材 (水系・溶剤系・セメント系)	薄塗材C(セメントリシン)	1981~1988	0.4
	薄塗材E(樹脂系リシン)	1979~1987	0.1~0.9
	外装薄塗材S(溶剤系リシン)	1976~1988	0.9
	可とう形外装薄塗材E(弾性リシン)	1973~1993	1.5
	防水形外装薄塗材E(単層弾性)	1979~1988	0.1~0.2
	内装薄塗材Si(シリカリシン)	1978~1987	0.1
	内装薄塗材E(じゅらく)	1972~1988	0.2~0.9
	内装薄塗材W(京壁・じゅらく)	1970~1987	0.4~0.9
	複層塗材C(セメント系吹付けタイル)	1970~1985	0.2
	複層塗材CE(セメント系吹付けタイル)	1973~1999	0.1~0.5
	複層塗材E(アクリル系吹付けタイル)	1970~1999	0.1~5.0
	複層塗材Si(シリカ系吹付けタイル)	1975~1999	0.3~1.0
	複層塗材RE(水系エポキシタイル)	1970~1999	0.1~3.0
	複層塗材RS(溶剤系吹付けタイル)	1976~1988	0.1~3.2
	防水形複層塗材E(複層弾性)	1974~1996	0.1~4.6
	厚塗材C(セメントスタッコ)	1975~1999	0.1~3.2
厚塗材E(樹脂スタッコ)	1975~1988	0.1~0.4	
建築用下地調整塗材	下地調整塗材C(セメント系フィラー)	1970~2005	0.1~6.2
	下地調整塗材E(樹脂系フィラー)	1982~1987	0.5

※表記はあくまでメーカーによる製造の年数であるため、現場調査の建築材料の場合は施工年数だけで断定することはできません。

乾式施工時のアスベスト粉塵は非常に飛散しやすいので、施工時、廃材排出時は特に注意が必要になります。

アスベスト含有事例の比率は外壁仕上塗材と下地調整材とでは、下地調整材に含有事例が圧倒的に多い為您ご注意ください。